

# これまでの主な歩み

## 1 はじめに

「平成28年台風第10号災害を凌ぐような暴風雨となることが予想され、明日、日中の避難が望ましい。」  
令和元年10月11日（金）に開催された「風水害対策支援チーム会議」における市町村長への助言内容は、平成28年台風第10号の記憶がまだ新しい職員に衝撃的なインパクトを与えた。

その言葉どおり、令和元年東日本台風は、県内で初めて大雨特別警報が発表されるなど、東日本大震災津波、平成28年台風第10号の被災地である沿岸部を中心に、被災からの復旧・復興に取り組む中で、被災地を再び容赦なく襲った。

## 2 令和元年東日本台風の概要

### (1) 台風の概要

台風の接近により10月12日夜遅くから非常に激しい雨となり、13日未明には沿岸部を中心に猛烈な雨となり、県内初となる大雨特別警報が、久慈地域、宮古地域、釜石地域、大船渡地域と一関市に発表された。総雨量は、沿岸の広い範囲で300mm以上の記録的な大雨となり、普代467mm、岩泉町小本450mm、宮古416.5mmでは10月1か月の平年値の3倍以上の雨量となった。<sup>\*1</sup>

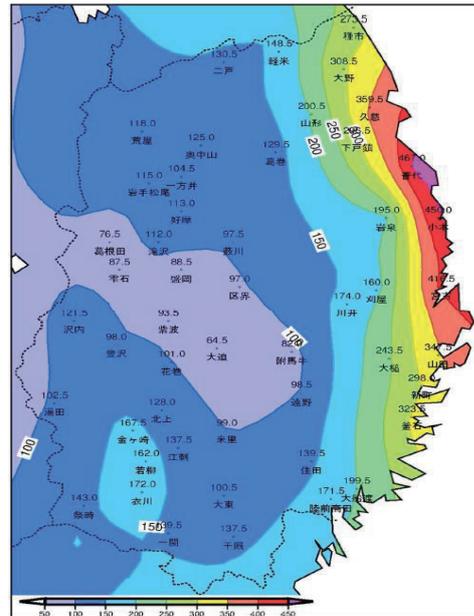


図-1 総降水量分布図

### (2) 被害の状況

この大雨により、3名の尊い命が失われたほか、全壊46世帯、半壊838世帯、一部破損912世帯、床上・床下浸水1,176世帯など沿岸部を中心に甚大な住宅被害が発生した。また、沿岸部の大動脈である国道45号のほか、県管理道路41路線58箇所での全面通行止め、JR八戸線や三陸鉄道が長期にわたり運航休止するなど、住民の生活に直結する交通インフラへも重大な被害が発生した。<sup>\*2</sup>

## 3 土砂災害の発生状況

沿岸部を中心に4市3町2村、98箇所で土砂災害が発生し、このうち約2割の18箇所は土砂災害警戒区域以外での発生であった。<sup>\*3</sup>

国では、このような状況を踏まえ、令和2

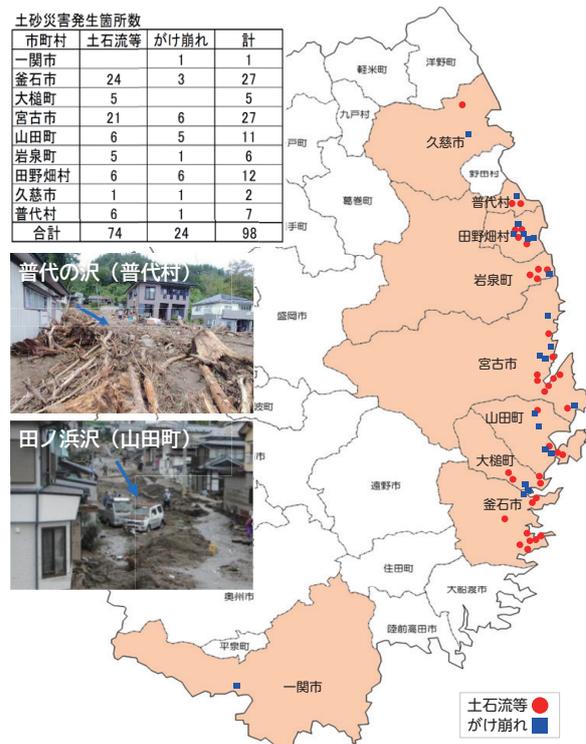


図-2 土砂災害発生箇所図

年8月に「土砂災害防止対策基本指針」を変更し、高精度な地形情報を用いて土砂災害が発生するおそれがある箇所を抽出することとし、県では、指針の変更を踏まえ、令和5年度までに9,992箇所の抽出を行っている。

## 4 土砂災害対策の実施

### (1) 緊急調査

甚大な被害状況を踏まえ、「土砂災害防止活動に関する協定書」に基づき、砂防ボランティア岩手県協会に土砂災害が発生した箇所及び近傍の土砂災害危険箇所の調査を依頼。協会では、10月21日から11月5日の16日間、延べ40名により、急峻な地形や流出土砂などにより現地の確認が困難な状況下において、111箇所の緊急点検を実施した。これら専門家による点検結果は、土砂災害の発生状況や二次的な土砂災害の危険性把握や速やかな応急対応のほか、事業導入検討及び市町村の警戒避難体制の早期構築に役立てられた。

### (2) 事業導入

土砂災害発生箇所のうち時期出水で流出又は全壊の危険がある箇所などにおいて、緊急的・集中的にハード整備を行うため、「災害関連緊急砂防事業」9溪流、「砂防激甚災害対策特別緊急事業」17溪流において、事業導入を行った。

このほか、市町村では、普代村1箇所、田野畑村3箇所において、「災害関連地域防災がけ崩れ対策事業」が導入された。

表-1 事業導入箇所一覧（県）

	田野畑村	岩泉町	山田町	大槌町	釜石市	計
災関		(1)	(3)		(5)	(9)
激特	1	2	3	1	10	17

※災関実施箇所は激特事業箇所と同一箇所

### (3) 応急対策

山田町の田ノ浜沢では、土石流や流木の流下による二次災害を防止し、下流の人家及び対策工事における安全を確保するため、県内で初めて「強靱ワイヤーネット工」による応急対策を実施した。また、応急対策完了時に、地域住民のほか報道機関を対象とした現地説明会を開催し、対策の目的等について広く周知を図った。



### (4) 事業実施

発災時は、東日本大震災津波に伴う海岸保全施設の整備の進捗が68%<sup>\*4</sup>、平成28年台風第10号に伴う砂防激甚災害対策特別緊急事業14箇所が事業中など、被災からの復旧・復興に取り組む中で新たな被災であったため、十分な職員の確保が難しく、限られた体制での対応を余儀なくされた。このような中、課題を一つ一つ解決し、令和2年の船越の沢（下閉伊郡山田町）を皮切りに順次工事に着手し、工事においても、近傍箇所での工程調整に努めるなど、早期完成に向けた取組を進めた。

### (5) 事業完了

発災から4年にあたる令和5年度までに全箇所概成を図り、令和6年7月には全17箇所事業

が完了した。

完了時には、普代の沢（交付金事業）、田ノ浜沢、尾崎白浜の沢（9）で完成式典を行うなど、地域住民へ対策の効果の周知などにも努めた。



## 5 おわりに

ハード整備は完了したが、近年の自然災害の激甚化・頻発化により、土砂災害の危険性は今後ますます高まる可能性がある。土砂災害に対する正しい知識を身につけ、避難行動につなげてもらうため、小中学校を中心とした砂防出前講座や地元の防災に携わる方々を対象とした講演などの啓発活動に今後も継続して取り組んでいく必要がある。

### 参考文献

- ※1 岩手県災害時気象資料 令和元年台風第19号による大雨と暴風・高波（令和元年10月12～13日）盛岡地方気象台
- ※2 令和元年台風第19号災害対応振り返り報告書 岩手県
- ※3 砂防災害課調べ
- ※4 いわて復興インデックス（令和元年11月） 岩手県



# 令和元年東日本台風における砂防事業対応年表

事業箇所	箇所名	R1	R2		R3		R4		R5	R6
		R1.10.13発災								
1	佐須の沢 (3)		R2. 3.30				R4. 3.15	R4. 6.8		R6.6
2	仮宿東の沢 (2)		R2. 1.9	R2. 3.30	R2. 10.23	R3. 4.27		R4.10		
3	桑ノ浜沢 (3)		R2. 1.9	R2. 3.30	R2. 9.30	R2. 10.15		R4.6		
4	桑ノ浜沢 (5)	R1. 12.2	R2. 3.30	R2. 10.13		R3. 12.27		R4.12		
5	尾崎白浜の沢 (4)		R2. 3.30				R4. 2.25	R4. 6.9	R5.5	
6	尾崎白浜の沢 (6)	R1. 12.2	R2. 3.30	R2. 10.23		R3. 10.18		R4.6		
7	尾崎白浜の沢 (8)		R2. 3.30		R3. 8.11	R3. 10.15			R5.3	
8	尾崎白浜の沢 (9)		R2. 3.30				R4. 8.9		R5. 12.13	R6.7
9	尾崎白浜の沢 (11)		R2. 1.9	R2. 3.30	R2. 12.22	R3. 5.31		R4.10		
10	平田の沢 (4)		R2. 3.30				R4. 3.24	R4. 6.23		R6.3
11	吉里吉里の沢 (3)		R2. 3.30				R4. 9.20	R4. 11.9	R5.12	
12	船越の沢	R1. 12.2	R2. 3.30	R2. 10.8	R2. 11.30			R4.3		
13	田ノ浜沢		R2. 1.9	R2. 3.30	R2. 10.19	R3. 6.7			R5.5	
14	田ノ浜沢 (3)		R2. 1.9	R2. 3.30	R2. 10.13	R3. 7.31		R4.11		
15	垂水の沢3	R1. 12.2	R2. 3.30	R2. 11.9	R2. 12.8			R4.3		
16	下中野の沢2		R2. 3.30				R4. 1.29	R4. 3.30	R5.6	
17	平井賀の沢		R2. 3.30				R4. 1.28	R4. 3.30	R5.5	

